

4 理療教育課程における初期学習支援の取り組み

国立塩原視力障害センター 教務課 秋山 仁

1 はじめに

理療教育課程に入所される方の中には学習する手段を持たずに入所する方が少なくない。このような現状を改善するために、国立塩原視力障害センターでは今年度初期学習支援を実施した。

2 初期学習支援の目的と内容

「初期学習支援」とは、これは、パソコン、DAISY 機器、点字器、墨字補助機器の基本的な技術を習得し、自分に合った学習技術をデザインすることを目的とした取り組みである。期間は入所からゴールデンウィーク前までとし、以下のような内容で支援を行うことにした。

- ①読む、記録をとる：パソコン（18h）、DAISY（20h）、ロービジョン（10h）
- ②試験の解答：点字（10h）、ロービジョン（10h）、テープ（2h）
- ③実践：模擬授業（6h）、学習技術（8h）、自己学習：（13h）

対象者は専門課程1年11名でパソコンとDAISYに関しては到達度に応じて2グループに分けた。また、ロービジョンと点字は本人の選択により選択制とした。支援担当者は教官を中心に（LVとPCで指導課自立訓練担当を加えて）1時間当たり2～4名とし、初期学習支援全体を通して、実人員は17名、延べ人数は255名となった。

3 支援の流れと方法

初期学習支援は、次のような流れで行われた。①初期評価（個別）②前期支援（6h×6日 集団支援）③後期支援（6h×6日 集団支援）④総括評価⑤実施後アンケート1（個別）⑥事後面接（終了後すぐ）⑦実施後アンケート2（前期評価後）なお、パソコンとDAISY再生機は期間中に限り全員に貸出を行った。

4 初期学習支援の結果

初期学習支援を通して全員が何らかの形で教材を読むことができるようになり、自分なりの学習技術をデザインできるようになった。また、全員が試験問題に解答し、答案を確認できるようになった。前期が終わった現時点では、全員が教官から資料をパソコンで扱えるデータで提供を受け、ほとんどの利用者が必要に応じて講義をPTR2で録音している。実施後アンケートでは全員が「学習スタイルをデザインできた」と答えている。このことから、初期学習支援はある一定の成果を挙げたと考えている。

5 今後の課題

学習スタイルはその時の視覚障害の状況やスキルによって変容するものでもある。従って、常にフォローアップしていく必要があると考える。利用開始時から修了まで一貫して支援できる体制を作る必要があると考えている。